

2/2 比田勝⇄釜山航路に新規参入

ハンイル
—韓日高速海運—



韓国の船会社（株）韓日高速海運が、韓国釜山と比田勝港を結ぶ定期航路を開設しました。この航路への参入は4社目で、対馬への韓国人観光客は、さらに増えることが見込まれます。定員319人のオーロラ号は、この日約110人の観光客を乗せて対馬に接岸しました。

2/18 天下吉凶を占う

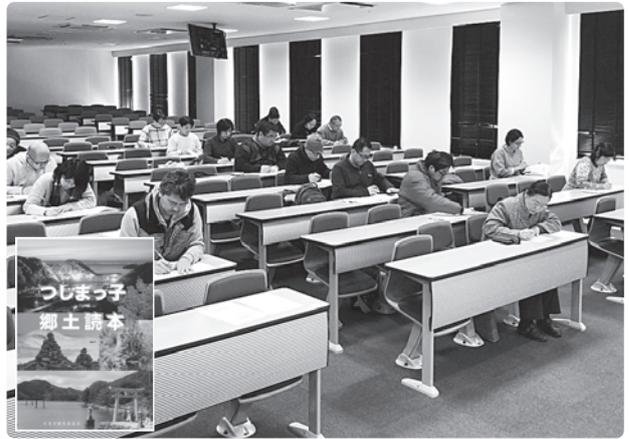
きぼく
—亀卜神事—



厳原町豆酸の雷神社で、天下国家の吉凶を占う亀卜神事が行われました。亀の甲羅に火を当てそのひび割れにより神のお告げをいただく神事で、対馬の今年の世相は「水産＝良」「農業＝吉」「豆酸地区＝並」「地震＝少々」と示されました。

2/11 対馬すげ～の～！しまの魅力再発見

—国境の島対馬検定—



対馬市交流センターで開催されたこの検定は、誰もが対馬の魅力を話せるようにとの思いから（一社）対馬観光土産協会が企画したものです。「つしまっ子郷土読本」から出題された50問（4択）に市内外から20人が挑戦しました。今回は歴史中心の問題であったため、次回は、自然やグルメなどを交えた総合的な検定を予定しています。

2/18 届け！私たちのメッセージ

—第17回対馬少年の主張大会—



豊玉町の対馬市公会堂で行われたこの大会では、各町代表の中学生がふだん感じていることや、社会に対する希望や提言などを発表しました。最優秀賞には、中尾麻衣子さん（久田中2年）が輝き、対馬市代表として「長崎県少年の主張大会」に出場します。

※中尾さんの発表内容及び大会結果は、次のページに掲載しています。

第17回対馬少年の主張大会最優秀作品

対馬の未来のために

久田中学校2年 中尾麻衣子



「さようなら」「元気でね」「頑張れよ」3月、厳原港は、中学校を卒業したばかりの若者たちの見送りで、あふれています。

現在、日本では少子高齢化が進んでいます。対馬の現状は深刻で人口減少と、高齢化は加速するばかりです。若者が減少する主な要因には島外への若者の流出があげられます。若者たちはなぜ島外へ出て行くのでしょうか。私は、若者の流出を防ぎ、少子高齢を抑制するために、対馬の教育を充実させることが大切だと思います。

私は、中学1年生の春に対馬に引っ越してきました。対馬に来て驚いたことの一つに、高校などに進学するために多くの人が島外に出ていくことがあります。ある人は、今より高い学力を求め、ある人はもっと本格的に部活動をするために……など。理由は様々です。中には、島外での受験に備え、中学校の途中で転校していく人もいます。このように、島外へ出た後、対馬に戻ってくる人はほとんどいません。対馬は離島で、地理的なハンデがあります。インターネットを使って、様々な情報や品物が手に入るようになりましたが、本土との学習環境には差があるままです。私は転校してきて、クラスになじめるか心配でしたが、幸い良い仲間に出会え、毎日楽しく学校に通っています。対馬の仲間たちは、明るく、素直で、運動会や合唱コンクールなどの行事、生徒会活動にも積極的に取り組みます。しかし、勉強となると、積極的とは言えないように感じています。長崎の友だちには、塾に通ったり、漢検、英検などをとったりして、日頃から受験を有利に進められるように取り組んでいる人がたくさんいます。対馬では、専門的な技術や大学に行けるまでの学力が身につかないと思っている人がたくさんいるのではないのでしょうか。

私は8月に「子ども議会」に参加しました。その話し合いの中で、特に印象に残っていることがあります。それは、佐須中学校では、前年度の3年生の中で20数名中、約10名が島外の学校に進学したということでした。佐須中学校では、交通手段の少なさから、島外へ進学する人が多いのだそうです。その現状を聞いて、地元の高校に行きたくても、行くことができない人もいるということは残念なことだと私は思いました。

このような状況を改善するにはどうしたらよいのでしょうか。まず、学力向上への意識改革が必要です。他の県にある離島の高校では、島外からの進学率が40パーセント以上にもなるところがあります。その高校では、外部から教師を招いたり、カリキュラムを一新、有名大学への進学コースや、将来の町のリーダーを養成する特別クラスを設けるなどの取り組みをしているそうです。対馬もそのような取り組みをすれば、対馬の教育は充実し、子供を持つ親が「対馬に住んでいても大丈夫」と思えるようになるのではないのでしょうか。

私は対馬が大好きです。山や海などの美しい自然の景色、おいしい郷土料理や特産品、いつも笑顔で優しい地域の人々、そんな人々の温かさをいつも感じる事ができるなど、対馬の魅力は言い切れないほどたくさんあります。対馬に住んでまだ2年の私でさえ、たくさんの魅力が語れるのだから長年住んできた人はもっとも対馬への愛情を語れるのではないのでしょうか。ずっと住んできた人たちは対馬から離れるのは、悲しいことだと思います。そんな人達が、対馬から離れなくても大丈夫のように、教育を充実させて、島内でも島外と同じような環境で勉強できるようにして欲しいと思っています。そして、島の中から島外へ対馬の魅力を伝えることができる若者が増えることを私は願っています。

この対馬の未来のために。

※原文のまま掲載

第17回対馬少年の主張大会結果

最優秀	久田中2年	中尾 麻衣子
優 秀	雞知中2年	寺田 希
優 秀	豆酸中2年	飯野 智妃呂
入 選	豊玉中1年	平江 真佐斗
入 選	浅海中2年	勝見 風音
入 選	東部中2年	小島 あかり
入 選	比田勝中1年	畑島 佑里奈
入 選	仁田中2年	須川 華花
入 選	西部中2年	國分 来未
入 選	豊玉中2年	原田 純蓮
入 選	佐須奈中2年	阿比留 心海

(敬称略)

3 / 1.5 夢に向けてスタート —対馬市内高校卒業式—



3月1日に上対馬高校・豊玉高校・対馬高校で、5日には虹の原特別支援学校高等部対馬分教室で卒業証書授与式が行われました。上対馬高校では、卒業生を代表して木寺黎さんが、学校生活の思い出や保護者・先生方への感謝の気持ちを、また在校生にはエールを送り答辞を述べました。卒業生たちは、それぞれの進路に向かって新しい第一歩を踏み出し、希望を胸に巣立っていきました。



答辞を述べる木寺 黎さん

平成29年度市内高等学校卒業生数

	卒業生	男子	女子
上対馬高校	25	8	17
豊玉高校	15	7	8
対馬高校	161	85	76
虹の原特別支援学校 高等部対馬分教室	3	2	1
合計	204	102	102

2 / 24・25 朝鮮通信使を後世へ —朝鮮通信使の集いin対馬—



昨年10月31日「朝鮮通信使に関する記録」がユネスコ記憶遺産に登録された記念イベントとして、24日に行われた市民劇団によるミュージカル「対馬物語」を皮切りに、25日には、朝鮮通信使行列の再現に約150人が仮装して厳原市街地を練り歩きました。その後の式典では、国書交換式、朝鮮通信使や登録資料の紹介、対馬を舞台とした小説「韃靼の馬」で司馬遼太郎賞を受賞した辻原登氏による特別講演など、この度の登録を祝いました。



櫓門から出発する朝鮮通信使行列



宗対馬守(松原 一征氏:右)と正使(柳 鍾穆氏)による国書交換式
※両氏はユネスコへ共同申請を行った団体の代表者



登録記念イベントに花を添えたミュージカル「対馬物語」



豊玉中学校の生徒による研究発表

※ユネスコ記憶遺産登録に向けたこれまでの取組等は広報つしま12月号をご覧ください。

各課からのお知らせ
無料法律相談
あんよん!韓国語
対馬振興局からのお知らせ
わがまち再発見 博物館通信
年金コーナー! 消費生活相談所
情報BOX
図書館情報 たすけあい通信
福岡事務所 レポート他
おくやみ 市長の動き他
特別診療案内他